

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	大津町			代表者名	町長 金田秀樹
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	教育部 生涯学習課 図書館	連絡先電話番号	096-294-8011
担当者役職	館長	担当者氏名	矢野好一	連絡先E-mail	
住所	869-1233 熊本県大津町大字大津1171番地				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	これから求められる図書館づくり事業
概要	開館23年目となるおおづ図書館は数年のうちに大規模改修を行う予定である。その際、施設や設備の更新だけでなく、情報化社会に対応した知識の創造、交流拠点としての図書館としてリニューアルしたい。これからの図書館像をデザインするうえで、優良事例の情報や住民協働での計画づくりの手法について助言をいただきたい。		
支援を求める分野	人材（DXに関する知識習得・研修・育成） デジタルアーカイブ／図書館 地域ビジネス その他		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年12月5日	支援・助言(実地)	13時15分	16時30分	15
				活動時間（分）	180
2-2. 派遣場所	会場名	おおづ図書館		最寄駅	JR肥後大津駅
	所在地	熊本県菊池郡大津町大字大津 1 1 7 1 番地		最寄駅からの交通手段	徒歩 約5分

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	岡本 真
評価	大変良い

上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	図書館職員でのワークショップに先立ち、約40分間大津町長との面談の時間を取り、全国自治体の事例をもとに大津町規模での図書館の重要性とその役割、23年経過の歴史に基づいたリニューアルの有効性、海外半導体企業進出により変貌する大津町にとって、これから図書館がどのように変わらなければならないのか議論していただいたことはとても良かった。研修に参加した職員にとっても、普段は業務側に視点から岡本氏の助言により俯瞰的におおづ図書館を見つめ直すことができ、さらに良い図書館にしようという意識の統一ができた。
-----------------------------	---

アドバイザーへの要望事項	町民にとっておおづ図書館がより良い施設となるよう、引き続き情報の提供やアドバイスなどの支援をお願いします。
--------------	---

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	14人	
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	14	0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	・おおづ図書館は築23年が経過し老朽化。書庫が手狭で拡張を望む声が多い。 ・人材育成やこどもが騒ぐ問題などは改善傾向。カフェの設置を要望は根強いが場所が無い。 ・貸出件数はコロナ禍で平成27年の28万件から17万件に減少後、現在は19.5万件で横ばい。 利用者アンケートで主な利用目的は「本の貸出・返却」で、要望は「蔵書の充実」が最多。 ・町民アンケートでは、4割が「生涯学習活動をしていない」と回答。駅周辺に「休憩できる」「子どもが集まれる」場所を求める声がある。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	今回の支援により、図書館職員が中心となって「これからのおおづ図書館」のイメージを、住民参加型のワークショップ開催により、概要をまとめる。 住民参加型ワークショップ時に図書館職員が各テーブルに入り直接対話することで、住民の主体性を引き出し、その要望を取りまとめ、来る大規模改修時の事業設計に意見を反映させるべき概要書をまとめる。

アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	・ワークショップの真の目的はアイデアの総術でなく、住民の主体性を引き出すことであると説明を受けた。 ・今後の取り組みとして、大津町の独自性を追求することこそが重要で、他自治体の成功事例をそのまま導入することの危険性について、岡本氏の数多くの情報提供をもとに注意喚起がなされた。 ・図書館運営には、ハードよりもソフトが重要であると指摘がなされた。	
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	・これからの大規模改修においては、「どう使われるか」を描き出し整備を行う。 ・住民とのワークショップでは、公金利用の判断基準として法律や条例の存在が重要で、「できること」と「できないこと」を伝えるため、事前に学習を行う。 ・グループワークでの改善提案として、断熱工事の有効性・JR駅利用者へのアクセスと利便性の向上・映えやくつろぎのスペース活用等々、アイデア実現に向けて早期着手と外部連携をできるところから始める。まずは年明けに学習スペース開放による「受験生応援プロジェクト」を行い、図書館の認知度を上げる。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
	グループワーク時に作成した図書館改修に向けたアイディア・案内・ヒント出しの応用紙 2枚 図書館職員が絞り出したアイディアが盛り込まれているので、今後の住民参加ワークショップや改修計画には非常に有効な情報であると考えます。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	これからのおおづ図書館の大規模改修事業に向けた、関わる職員らによるキックオフの研修会の位置づけとして、今回のアドバイザー事業を活用したため、具体的な課題改善の成果は得られていない。しかし、岡本氏による全国の図書館情報の提供と職員によるワークショップにより、おおづ図書館の良いところと課題の整理ができ、目指す方向性が示された。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
	職員が対象でありアンケートは行わなかったが、本研修の報告書提出を求めている。 ・蔵書を減らすことによる空間活用・駅からの動線・1日中居られる図書館等職員には新しい視点が見えたようです。	
4－3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	②次年度に予算化を図り推進する
	・大規模改修事業については、当初計画にR9から財政事情等により遅延 ・この期間を利用し、次年度から住民ワークショップを開催し図書館改修に向けた基本構想に着手する。そのための支援業務委託費をR8予算に要求予定。	
4－4. 事業の最終的な目指す姿	あらゆる情報を保有する図書館の機能を活かし、大規模改修事業により設備面のリフォームだけでなく、機能面でも向上した1日中過ごせるすべての世代に居心地の良い図書館づくりをめざす。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他＞を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

